病院図書館　2010;30(4):194-197

特集　司書職制度

# 図書館員の専門性認知を広げるための草の根的活動の可能性
## ―その認定証を額縁に入れて図書館に飾ろう―

佐藤　　翔/min2-fly

### Ⅰ．はじめに

「ブログを開設されている方として、『図書館員の専門性』について、あえてぶっちゃけたご意見をお書きいただきたい」とのご依頼をいただいた。2007年に自分が書いた「司書は専門職と呼べますか？」というブログエントリー[1]を編集部長がご覧になったのがきっかけであるという。これは当時まだ大学1年生だったhumotty-21氏の「図書館情報大学、のその後」という記事で述べられた、司書資格に関する「何万人もが技能を有している職業を、果たして専門職と呼べるのか？」「だから私は、図書館情報学の発展や、専門課程に意味を持たせるのなら、まずこの司書制度の改善が真っ先に必要だと、思うんだけどな」[2]という意見に応えて書いたものであった。当時、私は卒業研究で大学図書館のアウトソーシングについて扱っており、図書館員の専門性についてもその関係で勉強し出したばかりの頃であった。

卒業研究終了後、研究としては長くこのテーマを離れてしまっている。しかし「あえて学術的なものでなく、現状を見据えた率直な意見を」とのことだったので執筆を引き受けさせていただいた。自身は図書館で働いたこともなく、今後働く予定もない一介の大学院生兼ブロガーではあるが、「生涯一利用者」を標榜する立場からの率直な意見を述べたい。

さとう　しょう/みんつーふらい：
筑波大学大学院図書館情報メディア研究科
min2fly@slis.tsukuba.ac.jp

なお、以下で述べる意見は、筑波大学の学生有志によるプロジェクト「Library and Information Engineering（Lie）」[3]が毎週金曜日に放送しているWebラジオ「図書館情報学チャンネル」での議論を元にしたものである。Project Lieは工学的な観点から図書館について実用的に研究することを目的とするプロジェクトであり、自分の他にはリーダーの吉田光男（筑波大学大学院システム情報工学研究科）、小野永貴、常川真央、三津石智巳（いずれも筑波大学大学院図書館情報メディア研究科）らの4名が参加している。放送当時の議論に興味を持たれた方は、ぜひ録画映像をご覧いただければ幸いである[4]。

### Ⅱ．図書館員の専門性を巡る議論の現状

今回の依頼のきっかけとなったブログエントリーの公開からは早4年近くが過ぎている。当時の応答相手であったhumotty-21氏もすでに大学院生になり、卒業論文を書き終えている。当時卒業論文を書いていた私は今や博士論文の執筆に悩む身である。それだけの期間で、当時humotty-21氏が憂いていた司書あるいは図書館員の専門性を巡る制度についてどれだけの動きがあったかといえば、「思った以上にあった」というのが率直な感想である。司書課程のカリキュラムは更新され、2012年からは新カリキュラムが始まる。日本図書館協会では認定司書制度が始まり、第1回の募集が既に終わっている[5]。日本図書館情報学会による図書館情報学検定試験[6]も準備試験の回を重ね、2010年には

『図書館情報学検定試験問題集』[7]も刊行された。humotty-21氏と自分のブログエントリー以前から、ヘルスサイエンス情報専門員制度は存在していたが、この4年間で回を重ね、2007・2008年には止まっていた新規の中・上級認定者も2009年以降再び現れている[8]。大学図書館員についても、2009年からNPO法人大学図書館支援機構が「大学図書館業務実務能力認定試験」を開始しており、現在までに目録業務に関する3種類の試験を実施している[9]。今後は相互貸借業務やレファレンスサービスなどの試験も計画しているという。さらに2010年12月に公開された文部科学省科学技術・学術審議会による「大学図書館の整備について（審議のまとめ）」の中では、今後の大学図書館職員に求められる4つの専門性（大学図書館職員としての専門性、学習支援における専門性、教育への関与における専門性、研究支援における専門性）がまとめられ話題になった[10]。

図書館員の専門性は図書館界・図書館情報学界における長年変わらぬホットトピックである。その中でも近年は認定司書制度、図書館情報学検定試験をはじめさまざまな活動の結果が制度として実現しつつある時期と言えるだろう。認定司書制度については勤務年数の重視や公共図書館偏重などの批判も聞かれるが（特に図書館関連ブログなどでは批判意見が多い[11～13]）、少なくとも動きがあり、図書館界の注目を浴びていることは確かである。その他にも学会やNPO法人による各種の試験や認定制度が動いており、図書館員としての技能や知識、ひいては専門性を、なんらかの形にして示すことへの意識は、今後図書館で働いている者や働きたいと考えている者の間で高まっていくものと考えられる。

## Ⅲ．図書館員の社会的評価は？

しかしながら図書館員、あるいは図書館情報学を学ぶ学生や図書館研究者なども含む図書館関係者以外の間での、図書館員の専門性に対する認識についてはどうだろうか。冒頭で紹介した「司書は専門職と呼べますか？」というブログエントリーの中で、筆者はいわゆるプロ（プロフェッション）としての専門職には社会的評価の存在が重要である、と指摘した。社会的に専門職として認められ、待遇面で評価され得てはじめてプロと言える。それがなければ専門職ではない。この点については、しかし、この4年間でほとんど変わらないか、むしろ非正規職員として図書館に勤める者が増加し、賃金は下がる傾向であるとも言われている。さらに言うならば、図書館員に専門職になりうる専門性がある、と考えている利用者（あるいは、より多くの図書館を利用しないサービス対象者≒市民、学生、児童など）がどれだけいて、この4年でどの程度増えただろうか。率直な感想としては専門性があると考えている者はもともと少なく、特に増えてもいないように見える。図書館情報学を学ぶ学生の間からすら、どこに専門性があるのか悩む声を聞く状況である（もちろん、そこで専門性の所在を示すための各種制度でもあるのだが、まだ浸透はしていない）。

図書館関係者以外へのアピール、という点から考えると、Ⅱで紹介したいずれの認定制度・試験も大きな問題がある。あるいは問題外である。いまだ内向きにも広報をしている段階なのだから当然かもしれないが、開始から一定の期間が経ったヘルスサイエンス情報専門員制度であっても、図書館業界内でのアピールについてすら危うい。試みに「図書館情報学チャンネル」で共演している他の学生に同制度を知っているかを尋ねたところ、大学院生ですら同制度を知らない者が多かった（ただし情報工学よりの研究室の学生が多い点に留意はいる）。学部生の認知度は当然それ以下であろうし、ましてや図書館関係者以外をや、である。そもそも司書資格自体、さすがに図書館関係者で知らない者はいないものの、関係者以外からは「司法書士かと思った」「秘書かと思った」と言われることすらあるという[14]。逆に図書館で働いている者は全員司書資格を持っているのだと思った、という

人もいる。前提となる司書資格の認知自体がまだまだである、とも言える状況で、その上に積み重ねる各種の制度に至っては認知度を高めることからして困難を極めるだろう。

## Ⅳ. 認定証を額縁に入れてカウンター後ろの壁に掲げよう

しかし専門性や資格、認定制度の認知について、比較的取り組むことが容易で、かつ効果的な方策が１つある。資格認定証を額縁に入れてカウンターの後ろの壁（でなくともいい、とにかく利用者の目に付きやすいところ）に掲げるのである。

例えば私は理容師の資格制度についてこれまで全く勉強したことはなかったが、資格があることは知っていた。理髪店に行けば、壁に理容師免許が額に入れて飾られているからである。ドラフトマスターなる資格がなんなのかは（そもそも資格なのかも）全くわからないが、何やらそのような名称のビールを注ぐのが上手い（らしい？）人がいることは知っていた。居酒屋に受講修了証が掲げてあったり、「当店にはキリンのドラフトマスターが……」などと看板が出ているからである。このように、なんらかの資格や認定を受けた人物が職場にいる場合、資格の知名度にかかわらず顧客の目に付く場所に掲示している業種は多い。それにより、「なんだかわからないがそういうものがあるのか」くらいの認識は広まっていくだろうし、中には「おお、なんだかわからないが凄いのか」と思ってくれる人もいるだろう。

欲を言えば実際に認定を取った図書館員の顔写真と合わせて掲示することで、誰がそうなのかがわかるのが良いが、そうでなくともとりあえず「この図書館はなにかのプロがいるところなんだ」と思ってもらえるだけでもしめたものだろう。ドラフトマスター認定証の飾ってある店のビールはなんとなく美味しく思えるものである。その日のサーバ担当が実際にドラフトマスターかどうかとはあまり関係がない。こだわる態度と、それを掲げて仕事をするプロ意識の存在する職場である、ということを示すこと自体に意味があるのである（もちろん、それでまずいビールが出てくればドラフトマスターが担当かどうかと関係なく、ドラフトマスター自体の評価が下がることにもなり得るのだが）。

個人の認定証を公にさらすことには抵抗がある人もいるだろうが、その資格や認定を持っている勤務者の存在を、勤め先が顧客にアピールできないというのでは、その資格や認定になんの意味があるのか。あくまで自己評価・自己点検のためのものという考えもあるかもしれないが、先にも挙げたとおり「プロフェッション」とは社会の評価を一要素とするものであり、自分だけが知っている実力を高めても意味がない。業務を通じて評価してほしい、ということもあるかもしれないが、長い時間をかけて付き合っていかねばわからないかもしれない相手の力量を、それでは困るのですぐわかるようあらかじめ示しておくことが資格や認定の元来の意味である。業務にかかわる資格を取得したり、なんらかの認定を受けたりしたならそれを顧客に明示するのが誠実な態度というものであり、額縁に入れて掲げるというのは実にわかりやすい誠実さである。手始めに、司書資格保有者については資格認定証を発行してもらい、貼りだすと良いのではないだろうか。

図書館情報学検定試験の場合は、スコア表を額縁に入れて掲げても良いだろうが、細かいスコアは遠くからは判別しがたいところに難がある。むしろ受けた職員全員の点数を聞きだし、「当館には図書館情報学検定試験で xx/50 点を取得した職員が n 名以上おります」あるいは「当館職員の図書館情報学検定試験平均スコアは xx.x 点以上です」などの統計を示す方がより効果的かも知れない。英語における TOEIC や TOEFL スコアと同様の用い方である。ただし、TOEIC などと異なり世間的にスコアに関する相場観がないため、図書館情報学試験の点数を示されても凄いのかよくわからない、という課題

は残る。この点では合否式で資格認定証などを額縁に入れて飾ることのできる制度に比べると利用者へのアピールが難しい、と言えるかもしれない。

冗談めかして書いているが、草の根的に専門性に関する認知度を上げるうえで、各種の認定証を利用者から見える位置に掲示する、ということは実際に有効だろうと考えている。これから認定司書やヘルスサイエンス情報専門員の認定を受けようという方、あるいはすでに受けたという方にはぜひ実践していただきたい。それによって各制度の認知も広がることで、制度自身の成功や継続性にもつながるのではないだろうか。

### 参考文献


1）min2-fly. 司書は専門職と呼べますか？：かたつむりは電子図書館の夢をみるか. [引用 2011-02-17].
http://d.hatena.ne.jp/min2-fly/20070715/1184513610

2）humotty-21. 図書館情報大学、のその後：図書館学の門をたたく＊＊えるえす. [引用 2011-02-17].
http://d.hatena.ne.jp/humotty-21/20070715/1184500384

3）Project Lie. Library and Information Engineering (Lie)-project-lie.org. [引用 2011-02-17].
http://project-lie.org/

4）Project Lie. 図書館情報学チャンネル. [引用 2011-02-17].
http://www.ustream.tv/channel/l1gp
なお、本稿の議論の下敷きとなった認定司書制度と図書館情報学検定試験に関する議論を行ったのは第5回放送（http://www.ustream.tv/recorded/10493413）の後半である。このときは前述のProject Lieのうち、三津石智巳を除く4人が参加していた。

5）日本図書館協会認定司書事業委員会. 日本図書館協会認定司書事業委員会のページ. [引用 2011-02-17].
http://www.jla.or.jp/nintei/index.html

6）日本図書館情報学会. 図書館情報学検定試験：知的基盤社会のプロフェッショナルをめざして. [引用 2011-02-17].
http://wwwsoc.nii.ac.jp/jslis/kentei/index.html

7）根本彰, 上田修一, 小田充宏他. 図書館情報学検定試験問題集. 東京：日本図書館協会；2010.

8）日本医学図書館協会. JMLA 認定資格制度：トップページ. [引用 2011-02-17].
http://wwwsoc.nii.ac.jp/jmla/nintei/index.html

9）大学図書館支援機構. IAAL 大学図書館業務実務能力認定試験. [引用 2011-02-17].
http://www.iaal.jp/IAAL_HPver5/gaiyou.html

10）科学技術・学術審議会　学術分科会　研究環境基盤部会　学術情報基盤作業部会. 大学図書館の整備について（審議のまとめ）：変革する大学にあって求められる大学図書館像. [引用 2011-02-17].
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/1301602.htm

11）図書館退屈男. JLA「専門職員認定制度」の門はジブラルタルより狭い. [引用 2011-02-17].
http://toshokan.weblogs.jp/blog/2009/03/jla-ed58.html

12）hatekupo. 日本図書館【教】会が“免罪符”の販売を開始するのか!?〈認定司書制度の開始にあたって〉：匪図書館員 hatekupo の絶対国防圏. [引用 2011-02-17].
http://d.hatena.ne.jp/hatekupo/20100718/1279390071

13）G.C.W.「認定司書事業」がわたしに語ること（リハビリ7番勝負その3）：愚智提衡而立治之至也. [引用 2011-02-17].
http://jurosodoh.cocolog-nifty.com/memorandum/2010/11/7-071f.html

14）ceekz. Togetter：「第5回図書館情報学チャンネル（Project Lie）」. [引用 2011-02-17].
http://togetter.com/li/64043